

# ふるさと再発見 第46回

Rediscovery Omihachiman

たてもの探訪 ⑦

## 明治の警察署庁舎 市立資料館と魚友楼

今回は、本市に残る近代の公共建築物として、明治の警察署庁舎を紹介いたします。

滋賀県における警察の始まりは、明治5（1872）年3月に県令（現在の県知事）松田道之が県下の「市街郡村」に対し「防御人即ち西洋二所謂ポリス如キ者ヲ常備」するよう指示したことによります。それまでは各町村で雇っていた番人による自警が通例で、「警察」という概念はありませんでした。

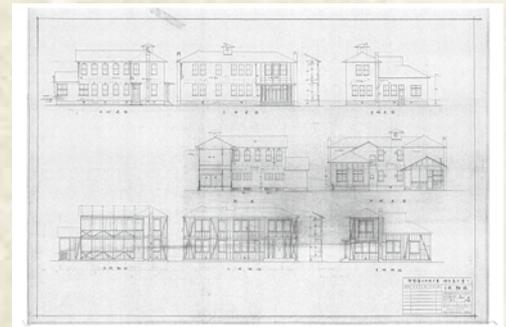
明治8（1875）年12月、地域の警防のため警察出張所と屯所の設置基準が定められ、翌9年2月、県内を6つにわけ、警部出張所を設置することにな

りました。これに基づき、八幡町には警部八幡出張所が置かれ

て、本市域を含む蒲生郡の半分以上と野洲郡・神崎郡・愛知郡の一部などが管轄されました。各地に屯所が設置されたうち、蒲生郡武佐村には第2屯所が設置されました。

以降、目まぐるしい制度の変更により、警察機構の名称、管轄は変化しますが、明治11（1878）年、新町二丁目八幡警察署が設置されると、武佐村の第2屯所は八幡警察署武佐分署と名称変更しました。

明治18（1885）年6月に八幡警察署庁舎が新築されることになり、翌19年6月に完成、



旧八幡警察署（市立資料館）改築立面図

7月には開署式が行われました。建築面積は462平方メートル、工事費は1万円余りといわれています。また、武佐分署も同年12月に新築されました。その敷地面積は170平方メートルで、棟札には工事費1944円余りと、滋賀県の技手、および八幡警察署の掛員の名前が記されていました。

さて、この2つの警察署施設ですが、現在も残っています。

八幡警察署は、警察署の移転に合わせ本市に譲渡され、昭和49（1974）年から市立資料館として活用しています。しかし、こちらは明治19年当初のも

のではなく、昭和28（1953）年に大幅な改築が行われています。設計・建築はヴォーリス建築事務所によって行われたため、当初の擬洋風建築とは異なり、丸い煙突屋根やドイツ壁と呼ばれる外壁など、いわゆるヴォーリス建築独特のデザインを見ることができません。

武佐分署は木造2階建てで、その後に普及する木造下見板張りの技法をとっており、シンプルながらスタイリッシュな造形となっています。当時の趣をほぼ維持して、会席料理店魚友楼の別館として利用されており、国の登録文化財になっています。



旧八幡警察署武佐分署（魚友楼別館）

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

### 人口と世帯

令和4年9月1日現在  
( )は前月比

総数	81,974人	(+ 13)
男	40,301人	(+ 22)
女	41,673人	(- 9)
世帯	35,012世帯	(+ 30)

※外国人住民(44か国・地域/1,750人)を含みます。

Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



広報おうみはちまん

令和4年10月号

編集・発行/近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB https://www.city.omihachiman.lg.jp



●この冊子は環境にやさしい紙を使用しています。印刷・製本工程で環境にやさしいインクを使用しています。